

2024年2月

第161号

ぱれっと



(株)北日本ベストサポート
Tel. 018-883-1888

「災害が再びやってきた」

本誌では、2019年10月号で「災害は忘れないうちにやってくる」と題して令和元年9月9日の千葉県房総半島沖を通過した台風15号によってピーク時64万件の停電、断水多数、建物の損壊16,659棟にも及ぶ被害の状況などについて記載した。

今年の新年は除夜の鐘とともに初詣、道路には全く雪もなく辰年で縁起の良い年のスタートかなと思っていたところ、16時10分突然グラグラと家が揺れ出して慌てて火を消し止め避難の準備をした。間もなく地震に関する情報がテレビで報じられ、震源地は能登半島沖比較的陸地に近い場所で発生、津波の恐れもある「早く逃げて身の安全を図ってください!」と繰り返し放送された。能登半島地震である。

夜に入って輪島市河井町で市街地火災が発生したが消火活動ができないため約300棟を焼き尽くした。能登半島地震はマグニチュード7.6・最大震度7・津波も最大3.9Mを記録し、日を追うごとにその実態が明らかとなり、被害の甚大さが浮き彫りとなってきた。3週間後の1月21日現在の状況では、人的被害として死者222名、負傷者997名(うち重傷者292名)不明者22名となっている。住宅倒壊・住宅火災・津波災害などで34,446棟が被害を受け、停電約5,900戸、避難所入居者15,656人となっている。

また、水道や道路などのインフラの被害が極めて深刻で、断水は能登半島6市町村ほぼ全域に及び浄水場は河川から導水する管や排水管なども地震で大きく破損しており、完全復旧には長期の日時を要する見込みとなっている。

ホテルや旅館などの宿泊施設への第二次避難も進んでいるが、それぞれの事情もあり思うように進んでいないのが実態だ。中学生の集団避難も一部されているが、親元を離れ受験も控え、精神的負担も多く心のケアも欠かせない。

さらに、今回の地震では輪島市で7階建てのビルが倒壊した。地下に打ち込まれた基礎部分の杭が折れたことによると推定されているが建築当時の建築基準法の耐震基準では地下の杭までの耐震構造を求めていなかったと言われている。

今回倒壊を免れたものを対象として31,600棟を応急危険判定したところ39.9%の12,615棟が建物内に立ち入らないように求める「危険」に該当した。

いずれにしても、弱い人々の心のケア、家屋、電気、水道、道路などまだまだ復旧はこれからの問題だ。全国の人々の熱い支援と、一日も早く日常生活を取り戻せる日が来ることを期待したい。私たち災害に遭遇しなかった人たちも万一に備え、日ごろから心の準備や備えを図っておきたい。能登の皆さん頑張れ!!

菜根譚

中国古典に学ぶ

質素な生活をする

粗食をして質素な生活をしている人は、心清らかな人であることが多い。

豪勢でぜいたくな生活をしている人は、上の者にへつらい従うことに慣れてしまい、いつの間にか自分の志や信念を見失ってしまうことが多い。

志は、欲のない質素で淡泊な生活により磨かれるが、節操は美食美衣の生活により失われていくものである。 (前集 11)

思い通りにならなくても悩まない

思い通りにならないからと言って、くよくよと悩んではいけない。逆に思い通りになったからといって有頂天になってはいけない。

今の幸せが続くと思っではいけない。

何かを始めようとして出鼻をくじかれたとしても逃げてはならない。

(前集 199)

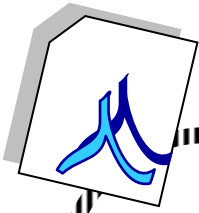
自然の美しさに目を向ける

名誉や金もうけばかり考えている人は、とかく「世間は汚い、世の中は頭を悩まし苦しませることだらけだ」とぼやく。

しかしそれは、彼らが目先の損得にとらわれるあまり、自然の美しさに目を向けないからだ。

雲は白く、山は青く、川はさらさらと流れ、岩はそそり立っている。野には美しい花が咲き乱れ、鳥はさえずり、谷にはこだまし、木こりが歌っている。世の中にはこんな美しい世界もあるのだ。

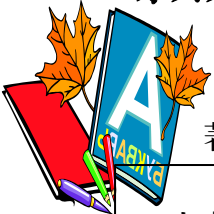
この世は汚れてもいないし、苦しいことばかりが起きるわけではない。そうさせているのは、自分自身の心である。 (後集 122)



豊田 佐吉 (日本の発明家・実業家)

- 慶応3年2月14日(1867年) 静岡県湖西市で、百姓で大工の父伊吉、母ゑいの長男として生まれた。
- 明治11年12月(1878年) 吉津村川尻小学校卒業。父の大工の修行を始める。
- 明治19年(1886年) 朋輩の佐原五郎作と無断で東京へ出奔。大工の修行をする。
- 明治23年4月(1890年) 東京上野で第3回内国勸業博覧会見学。
- 明治23年11月11日 豊田式木製人力織機を発明。特許申請。
- 明治28年2月14日(1895年) 糸繰返機の特許取得。
- 明治29年11月15日(1896年) 豊田式木鉄混製力織機発明・特許出願。
- 明治30年(1897年) 7代目石川藤八と佐吉が共同で乙川綿布合資会社設立。
- 明治34年(1901年) たて糸送り出し装置発明。
- 明治37年(1904年) 管換え式自動織機を発明。
- 明治43年(1910年) 渡米。翌年欧州を回って帰国。
- 明治45年5月18日(1912年) 藍綬褒章受章。大正13年2月2度目の受章。
- 大正14年(1925年) 「無停止杼換式自動織機G型」完成。
- 大正15年(1926年) 株式会社豊田自動織機製作所設立。
帝国発明協会から恩賜記念賞受賞。
- 昭和2年11月12日(1927年) 勲三等瑞宝章を受章。
- 昭和5年10月30日(1930年) 覚王山の自邸にて脳溢血・急性肺炎のため死去。
享年63歳。 従五位に叙せられる。
- 昭和60年4月18日(1985年) 工業所有権制度100周年記念で、「日本の偉大なる発明者10人」に選ばれ、政府から特別顕彰される。

オススの *BOOK*



BCGが読む「経営の論点」2024

著者 ポストンコンサルティンググループ編 発行者 日本経済新聞出版

本書は1963年に戦略コンサルティングのパイオニアとして設立された会社のメンバーにより共同執筆されたものである。

2024年では生成AIの進化に伴いこれとどう関わりを持つか、政治経済が不確実性を増している中、サプライチェーンのリスクを正確に把握し、事業開発、成長戦略として「多角化戦略」のあり方、あるいは「プライシング」(値付け)、人事戦略の考え方など「8つの論点」から述べられている。








『ゼイ・ゼイ』青色吐息

インボイス制度の改正など、生活に直結する増税、減税に関する動向が注目を集めた令和5年、世相を表す漢字は「税」（ゼイ・セイ／みづき）が選ばれました。選定理由として、家計への大きな打撃となっている生活必需品の値上げや、直近30年間減少傾向の賃金指数、増加し続けている社会保険料や税負担も、無視できない背景要因の一つと言えます。

物価高騰の波を否応にも感じる昨今、それでも車の買い替えタイミングは来てしまいます。場合によっては、事故・故障などで突然そのタイミングがくることもあるでしょう。しかしながら、車1台当たりの価格は20年前に比べて5割近くも値上がりしている車種もあり、「乗り換えたいが、車が高くて買えない」と言った消費者の悲痛な叫びがこだまします。可処分所得が大きく減少している近年、マイカーの持ち方も『所有（ローン）』から『利用（リース・残クレ）』に大きな変容をみせつつあります。

実質的な増税・物価高に苦しむ消費者の救世主となる『マイカーリース』。弊社でもマイカーリースの取扱を行っております。まずはお見積もりのご依頼だけでも喜んでお受けいたします！！

消費税 	30年前 3% ⇒ 現在 10% に アップ
物価 	30年前と比較して、 約1割アップ
社会保険料 	軒並み増加傾向のため 手取り収入ダウン
退職金 	30年前と比較して、 平均額で約900万円ダウン
銀行預金金利 	30年前と比較して、 1630分の1にダウン

【編集後記】

辰年は縁起がいいと言われている一方、お金にまつわる事件も発生している。田中角栄元総理のロッキード事件、その後リクルート事件などが発生した。

昨年暮れから自由民主党のパーティー券発売の成果が大きかった議員に対して、お金のキックバックがあったとされ、それが議員個人の収支報告書に掲載されていなかったというものである。これが派閥単位で行われていたとして、安倍派、岸田派は派閥解消の動きとなっている。「繰り返される政治とカネ」問題を早く決着させ本来の国政にあたっていただきたい。この問題の時間の浪費は税金の無駄遣いでもある。